

2021年度跡見学園女子大学附属心理教育相談所活動報告

1. 2021年度 年間活動報告

所員の構成

令和3年度の相談所の所員構成は、相談所相談員・補助相談員（臨床系教員）11名、事務担当者3名、インテーク面接担当者12名であった。

令和元年度相談員・補助相談員と開所日

令和3年度相談所開所日と相談員・補助相談員は以下のごとくであった。

令和3年4月2日（金）から令和3年8月7日（土）および令和3年8月23日（月）から令和4年3月31日（木）までは週6日開所とした。令和3年12月26日（日）から令和4年1月10日（月）の冬季休業中は閉所とした。

また、文京分室ATOMIさくらルームにおいては、上記開所日のうち、木曜日・土曜日を閉所とした。

相談員	松崎くみ子	（臨床心理学科・教授）
	阿部 洋子	（臨床心理学科・教授）
	新井 雅	（臨床心理学科・准教授）
	小栗 貴弘	（臨床心理学科・准教授）
	酒井 佳永	（臨床心理学科・教授）
	野島 一彦	（臨床心理学科・教授）
	板東 充彦	（臨床心理学科・准教授）
	前場 康介	（臨床心理学科・准教授）
	宮岡 佳子	（臨床心理学科・教授）
	宮崎 圭子	（臨床心理学科・教授）

補助相談員 鈴木 眞理 （臨床心理学科・特任教授）

相談所周知のための活動

本相談所のパンフレットを、他大学相談所等（106カ所）、近隣小・中・高等学校（98カ所）、近隣の保育園・幼稚園・放課後児童保育室（47ヶ所）、教育委員会・教育相談センター等（6カ所）、病院・クリニック（8カ所）、保健センター・児童相談所・子育て支援センター等（14カ所）、その他民間相談室等（11ヶ所）に送付し、あわせて本学公開講座受講者、本相談所無料講習会受講者にも配布した。

大学相談所、教育委員会、病院・クリニック、保健センター・児童相談所、子ども相談室・子育て支援センター等にはポスターも送付した。

また、新座駅・志木駅構内掲示板へのポスター掲示および情報誌ぱど（新座志木版、川越版、ふじみ野富士見市版、所沢版、朝霞和光版）への広告掲載も行なった。

【相談所パンフレット】



跡見学園女子大学

跡見学園女子大学 心理教育相談所

■新座キャンパス 心理教育相談所 開室時間(月～土曜日:9:30～16:30)
〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6 TEL:048-478-2177

■文京分室 ATOMI さくらルーム 開室時間(木・土曜日:13:00～16:50)
〒112-0002 東京都文京区小石川5-5-5 プライム茗荷谷ビル7階TEL:03-3944-8151
<http://www.atomi.ac.jp/univ/shinri/index.html>

【ご相談内容】

跡見学園女子大学 心理教育相談所では、以下のような相談をお受けしています。

学校に関する悩み

- 学校にいけない
- いじめにあっている
- 友達とうまく付き合えない
- 学業について困っている など

家庭生活に関すること

- 非行や家庭内での暴力に困っている
- 夫婦・親子・家族関係に悩みがある
- 近所付き合いについて悩んでいる
- 生活環境に問題がある など

職業に関すること

- 仕事がつらい
- 仕事にいけない
- 職場の人間関係で困っている
- 就職・転職について悩んでいる など

育児や障がい児の教育の悩み

- 子育てに困っている
- 障がい児のことで悩んでいる
- 障がい児にどう向き合おうか困っている
- 障がい児をいかに育てるかを知りたい など

自分自身の性格や健康

- 人と話すのが苦手だ
- 自分の性格について悩んでいる
- 自分の精神的健康に自信がないなど
- 生き方について悩んでいる など

※このようなご相談に対して、カウンセリング、心理療法、心理テストなどを行っています。 ※ご相談内容につきましては秘密厳守いたします。
※ご相談の内容によってはお引き受けできない場合もございます。

不登校を考える親の会(新座：第1、第3水曜日の午前10時～12時、文京分室：第2、第4土曜日の午後13時～15時)

【受付から相談まで】

本相談所は完全予約制となっております。まずはお電話にてお申し込みください。

【予約受付電話番号】 受付時間：午前9時～午後4時

新座キャンパス心理教育相談所 **048-478-2177**

文京分室 ATOMIさくらルーム **03-3944-8151**

初回の相談の予約をお取りし、ご相談の詳しい内容やこれまでの経緯、その他必要と思われることについて、臨床心理士およびカウンセラーが伺わせていただきます。

※電話での相談は受け付けておりません。また、大学の長期休暇等で受付時間を変更する場合があります。

- ・本相談所は臨床心理学専攻の大学院生の教育・研究機関を兼ねています。
- ・大学院生が陪席および相談を担当させていただく場合がございます。その場合には教員の指導の下に行います。



面接室

毎年5回程度、教員による心の問題をめぐる「講習会」(無料)を開催(詳細はホームページ)

2. 相談活動報告

2021年4月1日から2022年3月末日までの相談としては、新規相談件数46件、延べ相談回数950件、延べ来所人数1080名であった。

来談者の主訴は、子供の学校における問題、引きこもり、親子関係の問題、家族の問題など現代の世相を反映する傾向が認められた。月別来談者数および相談内容は以下のごとく。

表1. 月別来談者数

2021年4月～2022年3月末の来談者数

【新座キャンパス相談所】

() は内遠隔数

	初回相談件数 (件)	延べ相談回数 (回)	延べ来所人数 (名)
2021年 4月	2	59 (10)	69 (10)
5月	1	72 (16)	76 (16)
6月	3	68 (15)	78 (15)
7月	4	74 (18)	85 (18)
8月	5	59 (14)	65 (14)
9月	3	77 (21)	87 (21)
10月	3	66 (16)	76 (16)
11月	6	71 (13)	87 (13)
12月	4	63 (10)	74 (10)
2022年 1月	4	58 (9)	69 (9)
2月	3	68 (14)	78 (14)
3月	0	56 (9)	67 (9)
2021年度合計	38	791 (165)	911 (165)

【文京分室ATOMIさくらルーム】

() は内遠隔数

	初回相談件数 (件)	延べ相談回数 (回)	延べ来所人数 (名)
2021年 4月	0	9 (7)	9 (7)
5月	3	16 (10)	19 (11)
6月	0	14 (9)	14 (9)
7月	0	14 (8)	14 (8)
8月	0	13 (8)	13 (8)
9月	3	18 (8)	19 (8)
10月	0	13 (8)	17 (8)
11月	0	11 (4)	12 (4)
12月	0	15 (7)	15 (7)

2022年 1月	0	12 (4)	12 (4)
2月	1	10 (8)	10 (8)
3月	1	14 (7)	15 (7)
2021年度合計	8	159 (88)	169 (89)

表2. 来談者の相談内容

2021年4月～2022年3月の来談者の主訴

来談者による主訴の種類	件数
家族の相談	41
自分自身の問題・性格	42
抑うつ・情緒不安定	1
対人関係	5
社会不適應	1
不登校	5
不登校の親の会	8
その他	19

3. 不登校を考える親の会報告

わが国の小・中学生の不登校は相変わらず15万人を超えている。そのような子どもに対して直接働きかけることは非常に難しく、次善の対応として親へのサポートがある。本相談所でもそれを行うべく、相談活動の一環として「不登校を考える親の会」を月に2回（新座キャンパス：第1、第3木曜日の10時～12時、文京分室ATOMIさくらルーム：第2、第4木曜日の午後1時～3時）、開催した。来年度は新座キャンパス：第1、第3水曜日の10時～12時、文京分室ATOMIさくらルーム：第2、第4土曜日の13時～15時で継続して活動していく予定である。



跡見学園女子大学

跡見学園女子大学附属心理教育相談所

「不登校を考える親の会」のご案内

小・中学生の不登校は、相変わらず15万人を超えています。学校に行かない子どもには、ひとりひとりそれなりの事情があります。

学校に行けない、行きしぶる、教室に入れない、朝起きられない、朝になると体調が悪くなる、イライラしている、落ち込んでいる、昼夜逆転している、部屋に引きこもっている、友達とうまくいかない、こんな様子はありませんか。

このような子どもをどう理解すればいいのか、どう向き合えばいいのか、親の会で、みなさまと一緒に話し合い、考えてみませんか。

***担当スタッフ**：相談所所員

***日時・場所**：2022年4月より2023年3月まで
新座キャンパス心理教育相談所、文京分室 ATOMI さくらルームともに開催しています（コロナ状況が改善されるまで、Zoomでの開催となります。）

新座キャンパス心理教育相談所

第1・第3水曜日 10：00～12：00（2時間）

<https://www.atomi.ac.jp/univ/shinri/facility/>

文京分室 ATOMI さくらルーム

第2・第4土曜日 13：00～15：00（2時間）

<https://www.atomi.ac.jp/univ/shinri/facility/#bunkyo>

※継続的な参加、単発的な参加どちらでも可能です。

※不定期の休会もあります。日程につきましてはご確認ください。

***定員**：6名

***参加費**（相談料）：1回 1000円

***申し込み方法**：希望日の前日16：00までに、
下記へお電話でお申し込みください。
（初めての方は1週間前迄にお申し込みください）



申し込み・お問い合わせ

跡見学園女子大学附属心理教育相談所

（埼玉県新座市中野1-9-6）

TEL 048-478-2177（相談受付/月～土 9：00～16：00）

ホームページ <https://www.atomi.ac.jp/univ/shinri/>

4. 講習会報告

多くの方々に本相談所の存在を認知して頂くための活動の一環として平成15年度より開催してきた『講習会～こころを癒す～』を、今年度も開催した。

講習会を広報するとともに本相談所の存在を知ってもらい、心の問題を抱えているにもかかわらず専門機関に相談することをためらっている人に、本相談所を訪れるきっかけを作ることを目的とした。講習会の広報については、公共機関での広報、地域広報誌・ホームページへの掲載により行った。

講習会日程と参加人数

今年度は一般対象講習会を新座キャンパスにて全6回、文京キャンパスにて全6回開催した。開催日時およびテーマについては各講習会講師による講習会の概要報告の項を参照されたい。

講習会の延べ参加人数はコロナ禍の影響もあり、新座キャンパス132名、文京キャンパス96名であった。受講者の性別、年齢、職業、居住域、講習会を知った媒体については、以下の受講者傾向を参照されたい。併せて受講後アンケートの結果も以下に示してある。

受講者の傾向（新座キャンパス・文京キャンパス参加者合計228名）

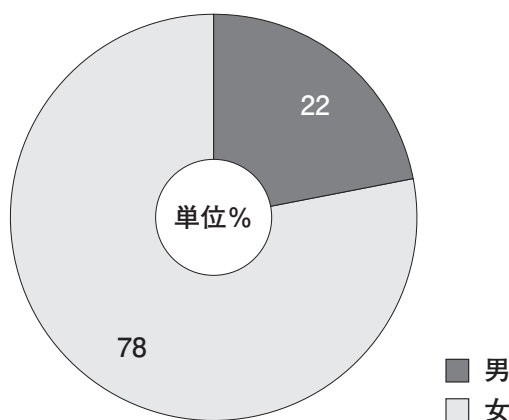


図1 講習会参加者性別構成 (N=228)

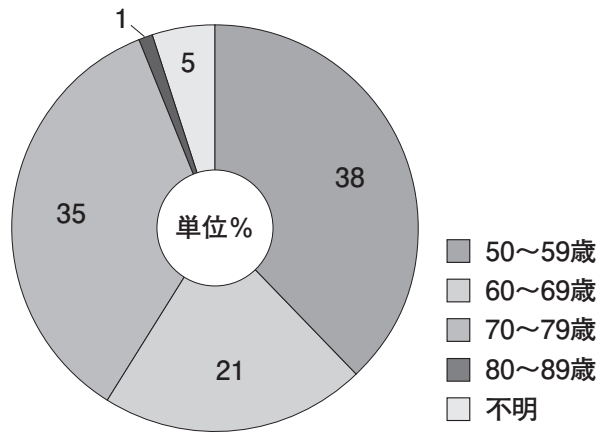


図2 講習会参加者年齢構成 (N=228)

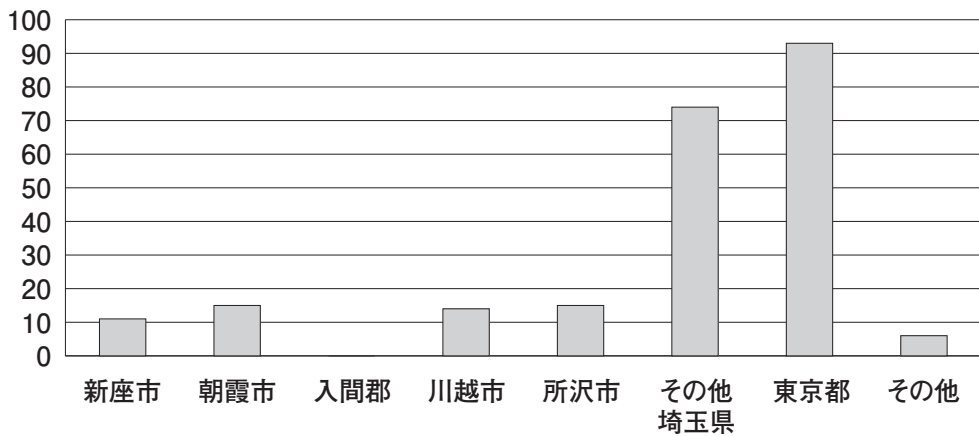


図3 講習会参加者居住地内訳 (N=228)

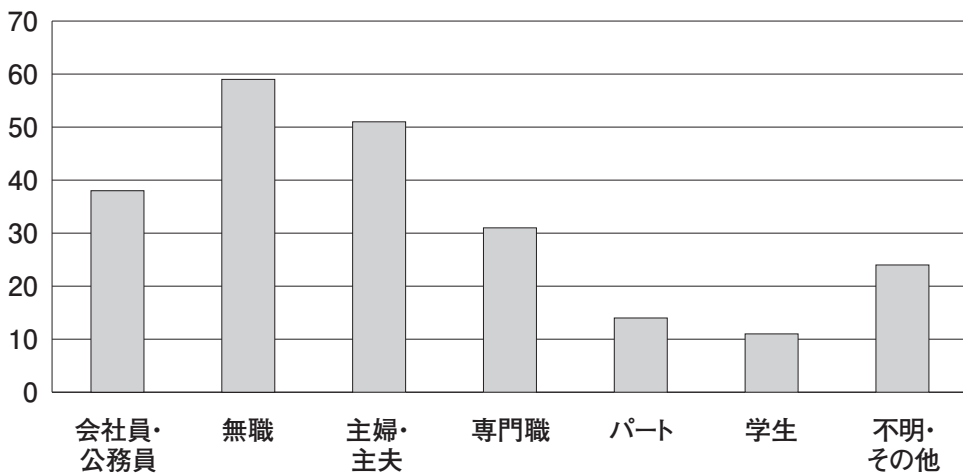


図4 講習会参加者職業内訳 (N=228)

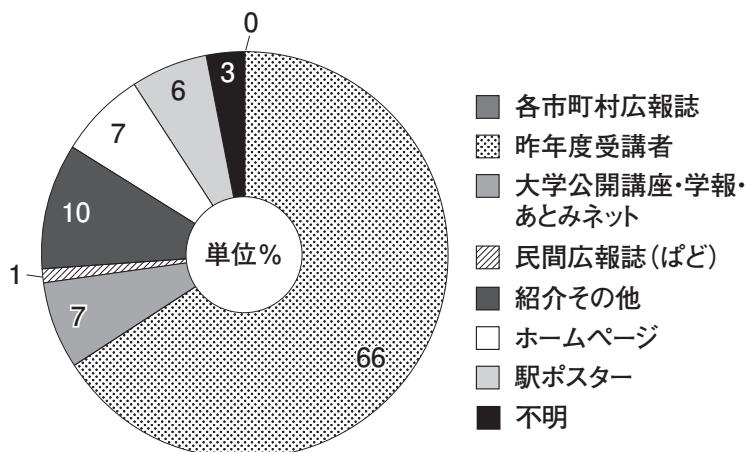


図5 講習会参加者経路内訳 (N=228)

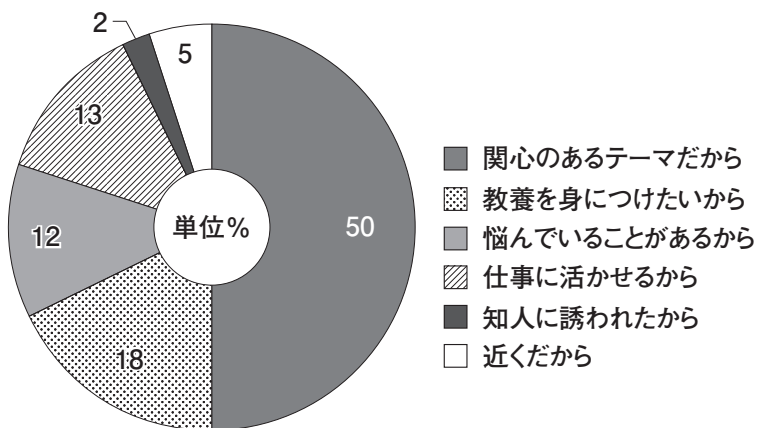


図6 受講した理由 (N=378:複数回答あり)

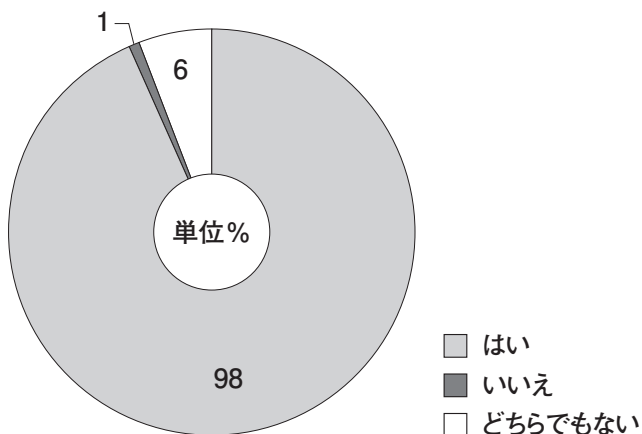


図7 講習会の内容を今後の生活に活かせると思うか (N=228)

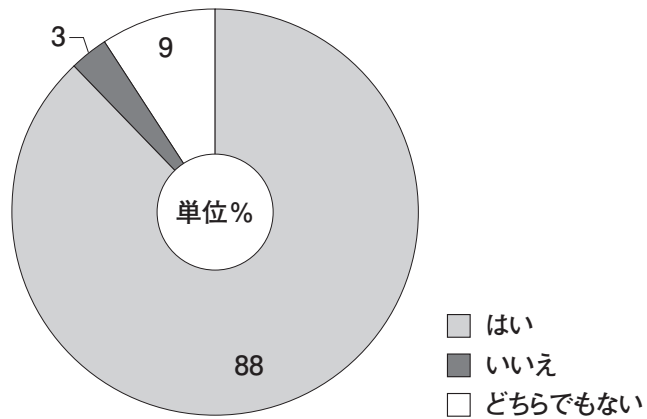


図8 自分自身の悩みや問題を解決する手助けになったか (N=228)

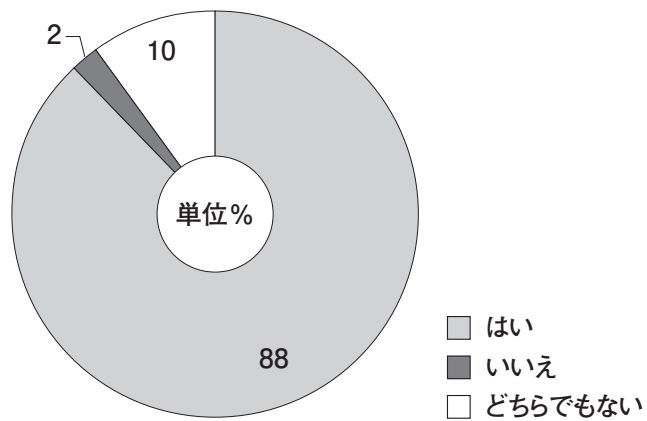


図9 受講内容は期待どおりだったか (N=228)

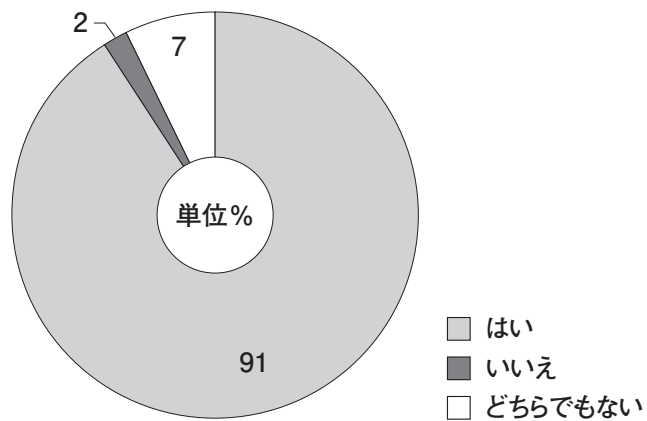


図10 講習会があったらまた参加したいか (N=228)

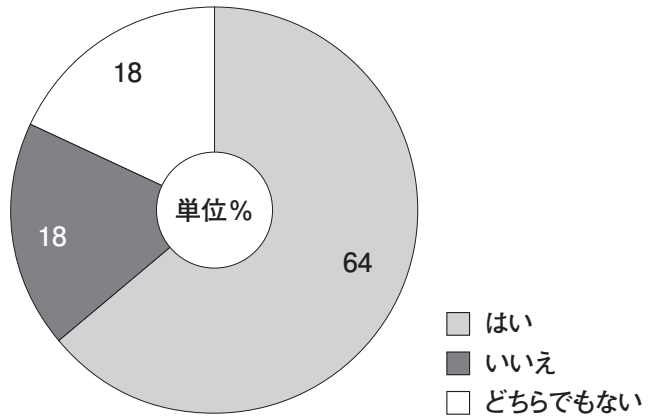


図11 機会があれば当相談所で相談してみようと思うか (N=228)

5. 講習会 概要報告

<1> 7月10日(土)・2月19日(土)

不登校の子どもをどのように理解し、どのように関わるか

野島 一彦

不登校は、「3つの要因」×「きっかけ」で起こる。「3つの要因」とは、①本人：性格、障害、病気等、②学校：友人関係、教師との関係、学業のこと等、③家庭：父、母、きょうだい等である。ただ、たった一つの要因だけで起こることは殆どなく、複合的要因で起こる。「きっかけ」とは、①友人関係：いじめられた、友達が冷たい等、②教師との関係：認めてくれない、えこひいき、叱られる等、③学業のこと：宿題、失敗して笑われた、成績等、④健康や容姿のこと：身体的虚弱、障害、肥満、身長、皮膚の色等、⑤その他：席がえ、給食、クラス委員への選出、家庭の不和等である。

不登校のタイプには、①「無気力型」：何となく登校しない、学習意欲に乏しい、②「遊び・非行型」：非行グループ、③「情緒混乱型」(神経症型) —低学年の『分離不安型』：母子分離の問題、一過性/『甘やかされ型』(慢性型)：幼稚園～、閉じこもりはひどくない、わがままな子、父は影薄い、母はやさしい(他者から合わせてもらいすぎ、鍛える必要あり)/『優等生の息切れ型』(急性型)：中学生～、閉じこもりがひどい、いい子、父は影薄い、母はしっかり者(親や教師の期待に合わせすぎ、ゆるめる必要あり)、④「学校生活起因型」：人間関係やいじめ等明らかに学校が原因等があるが、実際には複合型が多い。

関わり方は、(1)最初の1週間は登校させる努力をしてみる。一過性の不登校か本格的な不登校かは1週間程度の経過をみないと分からない。それでうまくいかない時は無駄な登校刺激を与えない。(2)1週間経過後しばらくのかかわり方は、担任と子どもとの接触は、『優等生の息切れ型』は困難、無理強いをしないこと。他のタイプは接触する方がよい。訴える症状を嘘だときめつけずに認めてやる。下校時に友人1～数名を立ち寄らせる。学校のことを知らせる。(3)不登校が数週間以上にわたる時の関わり方は、放置しないで何らかの手を打つ(放置することは「引きこもり」を固定化させる)。①担任と保護者との面談を定期的に行い連携する。②親がカウンセリングを受ける。③担任がコンサルテーション(専門家から専門家への助言)を受ける。④適応指導教室。⑤不登校を考える親の会。⑥フリースクール等。あせらず、あわてず、あきらめずに、立ち直ることを信じるが大事である。

<2> 7月17日(土)・2月12日(土)

元気の素をみつけましょう

松寄くみ子

現代人はストレスの中で生きています。適度の緊張は、生活にハリを与えてくれますが、ずっと続くと、心身の不調につながるといわれています。特に気をつけなくても、昔は、生活のテンポもゆっくりで、温かい人間関係や、自然に触れることで、ほっと一息つ

くことができていました。現代はそうもいきません。自らの心身の健康を維持するために、意識して緊張を和らげ、元気を取り戻す工夫が必要です。そんな工夫、ヒントのいくつかをご紹介しますと思います。

第一は、「自己効力感 (Bandura, 1997)」を高めることです。人は「自分には環境を変える力がある」と感じることができる (自己効力感) と、困難を粘り強く乗り越えていこうとする、と言われていています。そのために役に立つ環境条件が「応答性」と「随伴性」で、「人が外界に働きかけたときに、その働きかけに応じて (応答性)、あまり時間をおかずにすぐに (随伴性)、変化が起こると、自己効力感が高まりやすい」と言われています。私たちの周りに起こることに、なるべく「応答性」「随伴性」を盛り込む工夫をすることで、その周りにいる人の「自己効力感」が高まり「元気が増える」ことにつながります。

第二は、「安全基地」を持つことです。何か心配なこと、怖いことなどが外界で起こった時に、「大丈夫!」と思える「安全基地」を持っていることです。「安全基地」を支えにした、「活発な探索」で、さまざまなスキルが身につき、「元気」につながります。

第三は、「意欲」を高めることです。「おもしろそう」「やりがいがありそう」「やればできそう」「やってよかったと思える」ことに取り組むときに意欲は高まります (ARCSモデル, Keller, 1983)。身の回りに、このような課題をなるべく増やすと、「元気」が増えていきます。

第四は、適切な休息、栄養、運動です。これも、現代人は意識して工夫することが必要です。意識的な休息、意識的な食事、意識的な運動の知識とスキルを少し紹介しました。

最後に気持ちのコントロールです。不合理な不安、予期不安、漠然とした不安に気づき、なるべく合理的に対処する工夫が役に立ちます。

他にも、おいしいもの、青い空、美しい花、かわいい動物、音楽、映像、香り、カラオケなど、元気の素はいろいろとありますが、ご自身にとっての元気の素をみつけて、ストレスの多い現代社会をやり過ごしていきたいものです。

< 3 > 7月24日 (土)・1月22日 (土)

摂食障害：食べられない、食べすぎてしまう心理

鈴木 眞理

摂食障害の当事者・家族支援、専門職の講習、一般啓発を行っている一般社団法人日本摂食障害協会が、一般女性4017名 (平均年齢27歳) に「摂食障害に対する認知度Web調査」(2016年)を行った。「ダイエットが一番の原因」「過食は意思が弱いから」「母親の育て方が原因」はいずれも誤りであるが、これらの設問に「そう思う」と答えた比率はそれぞれ67.7%、26.8%、20.9%であった。一般社会における摂食障害の正しい認知はまだまだ不十分である。「学校でも親戚にも理解されない」という家族の嘆きが聞かれる。うつ病や発達障害に比べ、当事者も家族も被社会援助性が低いのは、摂食障害に対する誤解や偏見がある実情が関係していると考えられる。

本講義では、神経性やせ症における「怖くて食べられない心理」、あるいは、神経性過食症における「自制できないむちゃ食いと自己誘発性嘔吐・下剤乱用の悪循環の心理」をストレスコーピングの「回避」の視点で解説した。不健康とはいえ多大な心理的メリットがあるこれらの回避行為を手放すには、疾患に関する科学的な心理教育、認知の修正やコーピングスキル含むソーシャルスキルトレーニングが有効で、社会での実体験、周囲の理解と適切な支援、ある程度の時間が助けになること、家族や支援者が手伝えることを概説した。

家族も正しい情報を得ることができないと、当事者を叱責したり、ダイエットが不要であると説得したり、一方、嘆き悲しんだり、育て方が悪いと自分を責めたりしがちで、家庭内不和を引き起こしている。このような不適切な対応や過食する食品を買い置きするなどの家族の病気への巻き込まれは回復の障害になることが明らかにされている。また、ケアを担う家族は統合失調症の家族よりケア負担感が大きく、メンタルヘルス不調が多い。そこで、家族の心理教育や心理的な支援の重要性を伝えた。

摂食障害の回復とは体重と月経の回復、むちゃ食いや嘔吐が消失することなど臨床的リカバリーだけを考えがちであるが、症状があっても社会生活に支障がなく、生きがいや楽しさを持つというパーソナルリカバリーも重要であることも述べた。

7月の参加者は18名、1月は13名であった。通院、入院中の患者をケアするご家族には講義後に個別の相談を受けた。

< 4 > 7月31日(土)・11月13日(土)

成人発達障害の人がもつ困りごと～その対処を考える～

宮岡 佳子

発達障害の小児は増加している。それに伴い、成人期の発達障害も増加している。この中には、小児期に診断が付き、成人になったケースだけでなく、成人になってから発達障害に気づいたケースも多い。その背景には、発達障害の社会での認知度が高まったこともある。

講演では、発達障害の概要を説明し、次に成人発達障害の持つ困りごととその対象について解説した。

成人発達障害で多くを占める自閉スペクトラム症(ASD: Autistic Spectrum Disorder)と注意欠如多動症(ADHD: Attention-Deficit/ Hyperactivity Disorder)の症状について、架空症例を示しつつ説明した。ASDでは、ウイングが(1)対人交渉の質的問題、(2)コミュニケーションの質的問題、(3)イマジネーションの障害を提唱した。感覚異常があることも特徴的である。ADHDでは、(1)不注意、(2)多動性と衝動性がある。

発達障害では、周囲とうまくいかない、手際よくできない、ミスが多い等の様々な困難(困りごと)を抱えている。このために、抑うつ、不安、自己評価の低下、不適応などの二次障害をきたしやすい。発達障害の人の困りごとに対し、よりよい対処を考えれば、二

次障害を軽減できる可能性がある。この困りごとと対処の関係を、ストレス理論に沿って説明した。ストレス理論では、ストレッサー（困りごとに相当する）とストレス反応の間に、どう認知し、どう対処（コーピング）するかという過程が存在する。認知と対処の仕方により、ストレス反応は変化する。講演者が行った調査では、成人発達障害者は、作業、片付け、人間関係等に困難が多かった。

最後にストレス反応を軽減する方法を紹介した。（１）ストレッサー（困りごと）を減らす、（２）認知を変える、（３）認知を観察する、（４）小さな気晴らしを持つ、（５）リラクゼーションを行う、（６）周りに相談する、である。特に、自分で抱え込まずに相談する形のコーピングの大切さを強調した。

講演後は、家族や職場に成人発達障害の人がいる方からの質問が多かった。発達障害の困難の問題は、本人のみならず、周囲の人にも理解を深めてもらうべきテーマであると感じた。

< 5 > 8月7日（土）・2月26日（土）

ペアレント・トレーニング

～我が子との関わり方を知って、気持ちをラクにしよう～

小栗 貴弘

本講座は「ペアレント・トレーニング～我が子との関わり方を知って、気持ちをラクにしよう～」というタイトルで開催した。大まかな構成としては、①我が子の行動を3つに分けよう、②我が子に合うほめ方を考えよう、③ターゲット行動を選ぼう、④我が子の好ましい行動を引き出す工夫を考えようの4部構成である。ペアレント・トレーニングは1970年代に米国のカリフォルニア大学で、ADHD児の保護者対象に開発されたプログラムで、1990年代に日本に紹介された。現在では、ADHD児の親に限らず、親が我が子への対応の仕方を学ぶ代表的なプログラムの一つとして位置づけられている。親がプログラムを学ぶことによって、子どもへのよい影響はもちろん、親自身のストレス軽減にもつながるものである。標準版は、全10回で、約半年間かけて、同じ親グループで学んでいくものである。本講座では、その基本的な考え方についてワークを取り入れながら概観した。

①我が子の行動を3つに分けようでは、参加者それぞれが我が子や関わりのある子どもを想定しながら、行動を3つに分類する作業を行った。具体的には「好ましい行動」「好ましくない行動」「危険な（即座にやめてほしい）行動」の3つである。なかなか「好ましい行動」が見つからない場合、「これをしてくれなくなったら困る」という視点で考える作業をした。

②我が子に合うほめ方を考えようでは、我が子をほめるときの基本として「『子ども』ではなく、『行動』をほめる」、「よかった行動を言葉で表して伝える」、「他の子どもと比べない」といった事柄や、「結果」だけでなく「プロセス」からほめることの重要性について解説した。その上で、我が子へのほめ方を参加者それぞれが検討した。

③ターゲット行動を選ぼうでは、行動が増える原理と行動が減る原理について解説した

後で、①で挙げた「好ましくない行動」の中から1つ選択して、その行動をどのように減らしていったらよいのか、各自で検討を行った。

最後に、④我が子の好ましい行動を引き出す工夫を考えようでは、好ましい行動を引き出すための物理的・社会的な工夫について検討した。具体的には、「言語的プロンプト」「視覚的プロンプト」「身体的ガイダンス」「モデリング」「ポインティング」などについて解説した。

< 6 > 9月11日(土)・11月25日(木)

もしも身近な人が「こころの病」にかかったら？

酒井 佳永

< 講演概要 >

講演では、精神疾患に関する基本的な知識やよくある誤解について解説したうえで、精神疾患患者の家族が体験する様々な困難、家族が利用できる社会資源、家族への支援の在り方、家族自身による対処法を紹介した。以下に講演内容の概要を記す。

およそ4人に1人の日本人が一生のうちに統合失調症、うつ病などの精神疾患を経験する。自分自身や身近な人が「こころの病」を患うことは、決して珍しいことではない。家族などの身近な人がこころの病を患った時には、「以前と変わってしまった」と感じて動揺してしまったり、社会的な偏見が気になってしまったり、症状による様々な行動で家族の生活にも影響がでてしまったりするなど、家族はさまざまな困難を体験する。精神疾患に関する基本的な知識や治療方法を知っておくこと、また困ったときに、どこにどのような相談ができるのかを知っておくことは、とても重要である。

家族が体験する困難には、患者さんが仕事や家事が以前のようにできなくなることで等起因する経済的な困難、症状による行動にどう対処したらよいかわからないという困難、患者さんが治療を受けたがらない、医療機関との連携がうまくいかないという医療に関する困難がある。

本邦における課題は、家族を支援する資源が不足しているだけでなく、「どんな時、どこに相談したら、どのような支援が得られるのか」という情報が家族に十分に伝わっていないことである。例えば、患者さんがなかなか治療に繋がらないときには、各都道府県に設置されている精神保健福祉センターの精神保健に関する相談窓口で相談してみるのがよいだろう。また精神疾患はある程度長期間の治療を必要とすることが多くあるが、継続的な治療が必要だと主治医が判断した場合には自立支援医療の制度が利用できる。家事や育児に関わる困難がある場合は、地域の相談支援事業所において計画相談支援を受けたうえで、居宅介護をはじめとした支援を受けることもできる。こうした情報を、必要とする家族に届けていく必要がある。

精神疾患の多くは、家族との関係が治療予後に影響を及ぼす。家族が安心して患者を支え、患者の予後を改善するためには、医療、福祉関係者による家族への支援がとても重要である。また家族自身が、まず自分自身の生活と健康を大切にし、患者のサポートを一人

で抱え込まないようにすること、そして他の家族メンバー、医療機関、さまざまな相談機関など、家族自身をサポートしてくれる資源を確保すること大切であることを伝えていく必要がある。

6. OB・OGカンファレンス報告

臨床心理学専攻の修了生（1～15期生：188名）の＜院修了後教育＞として、心理臨床家としての資質向上のために、月2回（木曜1回・土曜1回）「OB・OGカンファレンス」を実施した。以下が今年度の参加状況である。

令和3（2021）年度 OB・OGカンファレンス報告

（会場＝文京キャンパスM1303、ATOMIさくらルーム），木曜＝18：40～20：40/土曜＝14：30～16：30

●コロナ状況が改善されるまではzoom開催

回	日程	OB・OG参加者数	教員参加者数	院生参加者数	総数
1	04月17日（土）	7	1	5	13+（1）
2	04月22日（木）	14	1	13	28+（2）
3	05月15日（土）	9	1	6	16+（4）
4	05月27日（木）	9	1	13	23+（1）
5	06月12日（土）	11	1	5	17+（0）
6	06月24日（木）	11	1	8	20+（1）
7	07月08日（木）	9	1	6	16+（1）
8	07月10日（土）	6	1	5	12+（1）
9	08月05日（木）	9	1	9	19+（1）
10	08月21日（土）	3	1	7	11+（5）
11	09月09日（木）	11	1	6	18+（2）
12	10月02日（土）	4	1	5	10+（4）
13	10月28日（木）	13	1	4	18+（2）
14	11月13日（土）	5	1	5	11+（1）
15	11月25日（木）	10	1	3	14+（0）
16	12月11日（土）	6	1	3	10+（2）
17	12月23日（木）	8	1	2	11+（2）
18	1月13日（木）	10	1	3	14+（2）
19	1月22日（土）	5	1	2	8+（2）
20	02月10日（木）	14	1	3	18+（2）
21	02月12日（土）	10	1	2	13+（0）
22	03月05日（土）	3	1	1	5+（4）
23	03月10日（木）	8	1	5	14+（3）
	2021年度合計 （のべ数）	195	23	121	339+（43）

7. 委員会報告

2021年度の委員会は以下の通りであった。

第1回 心理教育相談所委員会

日 時：令和3年6月16日（水） 12：20～12：31

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：松崎くみ子、野島一彦、矢島新、新井雅、酒井佳永、前場康介

- 内 容：1. 令和2年度心理教育相談所活動報告
2. 令和2年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告
3. 令和3年度心理教育相談所活動報告（4・5月期）
4. 令和3年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（4・5月期）
5. 令和2年度不登校を考える親の会報告
6. 2020年度OB・OGカンファレンス報告
7. 令和2年度スーパービジョン研修会報告
8. 2021年度心理教育相談所広報活動計画
9. 令和3年度心理教育相談所予算修正についての報告
10. 心理教育相談所紀要のリポジトリ登録について

第2回 心理教育相談所委員会

日 時：令和3年10月13日（水） 12：20～12：29

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：松崎くみ子、野島一彦、矢島新、新井雅、酒井佳永、前場康介

- 内 容：1. 令和3年度心理教育相談所活動報告（4月～9月期）
2. 令和3年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（4月～9月期）
3. 文京区教育センターとの連携について
4. 令和3年度第18号心理教育相談所紀要について
5. 令和3年度心理教育相談所講習会【新座】実施報告
6. 令和3年度心理教育相談所講習会【文京】日程
7. ATOMIさくらルーム緊急対応マニュアルについて

第3回 心理教育相談所委員会

日 時：令和4年2月16日（水） 12：20～12：48

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：松崎くみ子、野島一彦、新井雅、酒井佳永、前場康介

欠席者：矢島新（委員長に委任）

- 内 容：1. 令和3年度心理教育相談所活動報告（4月～1月期）
2. 令和3年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（4月～1月期）
3. 令和4年度心理教育相談所予算申請について
4. 文京区教育センターとの連携について（4月～1月期）
5. OB・OGカンファレンス報告（4月～1月期）
6. 令和3年度公認心理師試験結果報告
7. 文京区子ども家庭部訪問報告
8. 令和4年度心理教育相談所開所日程（案）
9. 令和4年度心理教育相談所インターン合否判定
10. 心理教育相談所相談員・補助相談員の任命に関する件
11. 心理教育相談所紀要に関する規程改正について
12. ATOMIさくらルーム緊急対応について

8. 担当者会議報告

2021年度の心理教育相談所担当者会議開催は、以下の通りであった。

第1回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和3年4月14日（水） 12：30～12：43

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：松嵯、新井、小栗、酒井、鈴木、野島、板東、宮岡、宮崎

- 内 容：1. 令和2年度心理教育相談所活動報告
2. 令和2年度大学院学外実習報告
3. 令和2年度不登校を考える親の会報告
4. 令和2年度OB・OGカンファレンス報告
5. スーパービジョン研修会報告
6. 文京区教育センターとの連携
7. 令和3年度心理教育相談所担当者一覧について

第2回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和3年5月12日（水） 12：20～12：35

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：松嵯、新井、小栗、酒井、鈴木、野島、板東、前場、宮岡、宮崎

- 内 容：1. 令和3年度心理教育相談所活動報告（4月期）
2. 令和3年度大学院学外実習報告（4月期）
3. 令和3年度不登校を考える親の会報告（4月期）

4. 令和3年度OB・OGカンファレンス報告（4月期）
5. スーパービジョン研修会報告
6. 文京区教育センターとの連携
7. 令和3年度心理教育相談所講習会について

第3回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和3年6月9日（水） 12：20～12：32

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：松崎、新井、小栗、酒井、鈴木、野島、板東、前場、宮岡、宮崎

- 内 容：
1. 令和3年度心理教育相談所活動報告（5月期）
 2. 令和3年度大学院学外実習報告（5月期）
 3. 令和3年度不登校を考える親の会報告（5月期）
 4. 令和3年度OB・OGカンファレンス報告（5月期）
 5. スーパービジョン研修会報告
 6. 文京区教育センターとの連携
 7. 令和3年度心理教育相談所予算修正についての報告
 8. 心理教育相談所ばど掲載広告
 9. 心理教育相談所紀要のレポジトリ登録について
 10. 令和2年度公認心理師資格試験 合格者数・合格率訂正版

第4回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和3年7月7日（水） 12：20～12：31

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：松崎、新井、小栗、酒井、鈴木、野島、前場、宮岡

- 内 容：
1. 令和3年度心理教育相談所活動報告（6月期）
 2. 令和3年度大学院学外実習報告（6月期）
 3. 令和3年度不登校を考える親の会報告（6月期）
 4. 令和3年度OB・OGカンファレンス報告（6月期）
 5. トライアルカウンセリング実施要項
 6. スーパービジョン研修会報告
 7. 文京区教育センターとの連携
 8. 紀要の校正の回数について（紀要規程 執筆細則 第五条確認）
 9. 8月・9月の相談所担当者（案）について
 9. 心理教育相談所講習会の日程について

第5回 心理教育相談所担当者会議

日時：令和3年9月8日（水） 12：20～12：31

場所：TeamsによるWeb会議

出席者：松寄、小栗、鈴木、酒井、野島、板東、前場、宮岡、宮崎

- 内容：1. 令和3年度心理教育相談所活動報告（7・8月期）
2. 令和3年度大学院学外実習報告（7・8月期）
3. 令和3年度不登校を考える親の会報告（7・8月期）
4. 令和3年度OB・OGカンファレンス報告（7・8月期）
5. スーパービジョン研修会報告
6. 文京区教育センターとの連携
7. 2021年度心理教育相談所ATOMIさくらルーム講習会（案）について
8. 令和3年度春学期（4月～7月末）実習状況
9. 心理教育相談所紀要18号への投稿について
10. ATOMIさくらルーム緊急対応マニュアル

第6回 心理教育相談所担当者会議

日時：令和3年10月6日（水） 12：20～12：50

場所：TeamsによるWeb会議

出席者：松寄、新井、鈴木、酒井、野島、板東、前場、宮岡、宮崎

- 内容：1. 令和3年度心理教育相談所活動報告（9月期）
2. 令和3年度大学院学外実習報告（9月期）
3. 令和3年度不登校を考える親の会報告（9月期）
4. 令和3年度OB・OGカンファレンス報告（9月期）
5. スーパービジョン研修会報告
6. 文京区教育センターとの連携
7. 令和3年度心理教育相談所講習会【新座】実施報告
8. 令和3年度春学期（4月～9月期）実習状況
9. 心理教育相談所紀要リポジトリ化に伴う他機関への発送方法の変更について
10. ATOMIさくらルーム緊急対応マニュアルについて

第7回 心理教育相談所担当者会議

日時：令和3年11月10日（水） 12：20～12：50

場所：TeamsによるWeb会議

出席者：松寄、新井、小栗、酒井、鈴木、野島、板東、前場、宮岡、宮崎

- 内容：1. 令和3年度心理教育相談所活動報告（10月期）
2. 令和3年度大学院学外実習報告（10月期）

3. 令和3年度不登校を考える親の会報告（10月期）
4. 令和3年度OB・OGカンファレンス報告（10月期）
5. スーパービジョン研修会報告
6. 文京区教育センターとの連携

第8回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和3年12月8日（水） 12：20～12：36

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：松嵯、新井、小栗、酒井、野島、前場、宮岡

- 内 容：1. 令和3年度心理教育相談所活動報告（11月期）
2. 令和3年度大学院学外実習報告（11月期）
 3. 令和3年度不登校を考える親の会報告（11月期）
 4. 令和3年度OB・OGカンファレンス報告（11月期）
 5. スーパービジョン研修会報告
 6. 文京区教育センターとの連携
 7. 令和3年度公認心理師試験結果報告
 8. 令和3年度実習状況（4月～10月期）
 9. 令和4年度心理教育相談所インターン選考基本方針・実施要項（案）
※書類審査委員・面接審査委員の選出
 10. 野島先生ご退職後の相談所の事業について
 11. インターカーの処遇改善について
 12. 派遣職員の残業について

第9回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和4年1月12日（水） 12：20～12：27

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：松嵯、新井、小栗、鈴木、酒井、野島、板東、宮岡、宮崎

- 内 容：1. 令和3年度心理教育相談所活動報告（12月期）
2. 令和3年度大学院学外実習報告（12月期）
 3. 令和3年度不登校を考える親の会報告（12月期）
 4. 令和3年度OB・OGカンファレンス報告（12月期）
 5. スーパービジョン研修会報告
 6. 文京区教育センターとの連携
 7. 2.3月の相談所担当者（案）について

第10回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和4年2月9日（水） 12：20～12：48

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：松嵯、新井、小栗、鈴木、酒井、板東、野島、前場、宮岡

- 内 容：1. 令和3年度心理教育相談所活動報告（1月期）
2. 令和3年度大学院学外実習報告（1月期）
3. 令和3年度不登校を考える親の会報告（1月期）
4. 令和3年度OB・OGカンファレンス報告（1月期）
5. スーパービジョン研修会報告
6. 文京区教育センターとの連携
7. 令和4年度M2学外実習先 春・秋割り振り
8. 令和3年度臨床心理士資格試験結果について
9. 心理教育相談所相談員・補助相談員の任期について
10. 令和4年度心理教育相談所開所日程（案）
11. 令和4年度心理教育相談所講習会について
12. 令和4年度以降の心理教育相談所事業について

第11回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和4年3月9日（水） 12：21～12：45

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：松嵯、新井、小栗、鈴木、酒井、野島、板東、前場、宮岡、宮崎

- 内 容：1. 令和3年度心理教育相談所活動報告（2月期）
2. 令和3年度大学院学外実習報告（2月期）
3. 令和3年度不登校を考える親の会報告（2月期）
4. 令和3年度OB・OGカンファレンス報告（2月期）
5. スーパービジョン研修会報告
6. 文京区教育センターとの連携
7. 令和4年度心理教育相談所インターン選考結果報告
新規＝7名、継続＝19名 合計26名が来年度インターンとして登録
8. 令和4年度心理教育相談所インターカー選考結果報告
新規＝4名、継続＝8名 合計12名
9. 令和3年度ATOMIさくらルーム講習会実施報告
10. 令和4年度心理教育相談所オリエンテーション
11. 文京区子ども家庭部訪問報告
12. 令和4年度インターカー枠増員のお願い
13. 富士見市教育委員会との連携について

14. OB・OGカンファレンス担当のローテーションについて
15. 不登校を考える親の会 引継ぎについて
16. 令和4年度心理教育相談所開所日程（案）について

第12回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和4年3月31日（木） 17：00～17：45

場 所：TeamsによるWeb会議、文京キャンパス心理学部研究室

出席者：松壽、小栗、酒井、宮岡、宮崎

内 容：1. Auto Memo（文字起こし機能つきボイスレコーダー）使用について